

《個人山行報告》

塩見岳(三伏峠小屋)

日時 2023年8月21日～24日

参加者 CL K.F SL T.F T.I N.N

行程

21日 琵琶湖大橋＝彦根 IC＝(名神・中央道)＝松川 IC＝民宿美野鹿

22日 民宿美野鹿＝駐車場ゲート～鳥倉登山口～三伏峠小屋

23日 三伏峠小屋～鳥倉登山口～駐車場ゲート＝民宿美野鹿

24日 民宿美野鹿＝松川 IC(名神・中央道)＝栗東 IC～帰滋

(予定行程 23日 三伏峠小屋～塩見岳～塩見小屋

24日 塩見小屋～登山口＝民宿美野鹿

25日 帰滋)

21日 晴 9時30分頃堅田側から琵琶湖大橋を渡り、彦根 IC より名神高速道に入り、休憩・昼食をはさみ、中央道を経て松川 IC で高速道路を降りる。ナビを頼りに本日宿泊の民宿美野鹿を目指す。14時30分民宿到着。普通の田舎の一軒家のような民宿。可愛いワンちゃんの出迎えを受ける。夕食まで時間があつたので、付近を散歩する。

22日 晴後曇 夜雨

6時50分民宿出発。登山口第一駐車場ゲートまでの近道を、民宿のご主人に途中まで案内してもらい。車一台しか通れないような狭い道を行くと、やがて登山バスが通る道に出る。

7時30分第一駐車場ゲートに着く。これより先は、登山バスのみ通行可で一般の車は通れない。そのバス道路を小一時間歩くと鳥倉登山口に到着(8:25)。準備を整え登山開始。いきなりの急登。急登が済んでもずっと樹林帯の登り。三伏峠小屋までどの程度進んだかを知るための看板が1/10～10/10 まである。1/10 を9時に通過。豊口山間のコルに10時着。手作り感満載の壊れかかった木の階段・橋が各所に現れる。滑りそうで怖い。景色のあまり変わらない樹林帯を進む。11時5分に「ほとけの清水」着。この後7/10を通過。塩川ルート分岐にて昼食(11:55～12:25)。8/10からはまたも急登。登って行くと、「日本一高い峠 三伏峠小屋 あと200歩です」の看板あり。実際に数えてみると300歩と少しあつた。三伏峠小屋着 13時。今日はここ泊まり。しんどかった、えらかった。もう歩けません！

宿泊は別館の個室で、4人で丁度くらいの広さの部屋。夕食まで、少し周りを散歩する。夕食はカレーライス。照明は16時から点き19時には消える。早々の就寝になる。

夜、雨と強風あり。雨の音・風の音に眠りを妨げられる。

23日 曇後雨 朝食5時。今にも雨が降りそうな天気。風もある。登頂するか下山するか迷う。天気予報は9時頃から雨。4人で相談するもなかなか決まらず。塩見岳山頂は岩場であり、雨で滑ることもあるかもしれないし、また、24日の天気予報は雨で、あの壊れかかった木の階段・橋は雨では危ないということもあり、下山に決定。残念では

あるが仕方なし。決定の最終判断はリーダー。

三伏峠小屋6時25分発。7時塩川ルート分岐。8時35分豊口山間のコル。壊れかかった木の階段・橋は、やはり濡れていて、恐る恐る歩く。登山口に着く前から雨が降り始める。鳥倉登山口9時50分着。雨、本降りになる中、第一駐車場ゲートまで歩く。10時40分ゲート着。

下山後、道の駅「歌舞伎の里大鹿」に寄り、さらに「望岳荘」にて入浴。ゆっくりくつろいだ後、小渋ダムを見学して民宿美野鹿へ。夕食には、コスモス、ハマナス、シシウド、アカツメグサ、その他葉の物などの天ぷらあり。珍しくおいしくいただきました。

25日 曇時々雨

民宿美野鹿発8時45分。中央構造線博物館に寄ってみる。時間が早くてまだ開館してなかった。敷地内を中央構造線が走っている。珍しい岩が多数敷地内に説明版を付けて展示されてある。

小渋川では砂をとって、それを運ぶダンプカーが多数走っていた。

松川 IC(10:00)から中央道に入り、雨が降ったりやんだりの高速道を走り続け、昼食・休憩を取りながら、名神高速栗東 IC で高速道を降り、草津(14:20)から琵琶湖大橋を経て帰滋。自宅近くで豪雨に襲われる。

【一口感想】

民宿美野鹿の食事は、手間暇・愛がこもった品で珍しく、美味しかった！

五月生まれの犬、‘くるみ’に癒された！

畑には、コスモスが揺れ、池には鯉が優雅に泳ぎ、コキアが可愛く並んでいた！

懐かしく、のどかな景色を民宿の窓辺で楽しんだ。霧が山を隠したり、ふわっと迫り雨を降らせたりと別世界の4日間過ごさせてもらいました。この歳で山登り&新体験をして帰宅しました。感謝しきれません。有難うございました。(N.N)

「23日の朝は雨は降っていないが風は相当強い状況であった。

天気は10時頃から雨、更に、翌日も一日雨の予報である。

この頃の予報は結構当たるので、この状況で登頂しても雨や霧の中と予想された。

また、翌日に延ばす選択肢も期待できそうにない。

ということで、リーダーはメンバーの意見を聞き、下山を決定したが、

雨が降っていない状況での判断は非常に難しかったと思う。

我々の体力も考えると、無事故で下山し、結果的には正解であったと思われる。」

(T.F)

南アルプスの山は奥深く大きい。民宿2泊、山小屋2泊というゆったり登山で計画した。残念ながら頂上に立つことは出来なかったが楽しい山行でした。(K.F)